

# 【概略】 平成28年度 大衡村財務状況把握の結果概要について

## 総合評価

**債務償還能力**〔地方債等の債務の大きさとその償還原資を獲得する能力〕

問題なし

実質債務月収倍率（②）が低いことから、債務の水準に**問題はない**。  
また、行政経常収支率（④）が高いことから、償還原資の水準に**問題はない**。

**資金繰り状況**〔経常的な収支と積立金等の備えからみた資金余裕状況〕

問題なし

行政経常収支率（④）が高いことから、経常的な収支の余裕度の水準に**問題はない**。  
また、積立金等月収倍率（③）が高いことから、資金繰り余力の水準に**問題はない**。

## 財務指標

指標	①債務償還可能年数	②実質債務月収倍率	③積立金等月収倍率	④行政経常収支率
	$\left(\frac{\text{実質債務}}{\text{行政経常収支}}\right)$	$\left(\frac{\text{実質債務}}{\text{行政経常収入} \div 12}\right)$	$\left(\frac{\text{積立金等}}{\text{行政経常収入} \div 12}\right)$	$\left(\frac{\text{行政経常収支}}{\text{行政経常収入}}\right)$
問題なし	2.8年	4.1月	8.5月	12.1%
やや注意		18月	3月	10%
注意	15年	24月	1月	0%

問題なし  
(債務系統)

債務償還能力

問題なし  
(収支系統)

問題なし  
(積立系統)

資金繰り状況

## 今後の見通し

今後の見通し（平成33年度）については、ヒアリング等の結果を記載しています。

- 新規起債額の抑制に努める方針であることから、地方債現在高は減少する見通しである。
- 積立金現在高は、財政調整基金の取崩しが見込まれることから、減少する見通しである。
- 行政経常収入は、地方税が増加する見通しであることから、増加する見通しである。行政経常支出は、扶助費や人件費の増加により増加する見込みである。
- 行政経常収支は、収入の増加幅に比べ支出の増加幅が大きく、減少する見通しである。